

夏秋ミニトマト（トマト）栽培における施肥について

「養液土耕栽培と同様な栽培管理」

1. 萩地域における土壌分析の数値（分析時期は冬場に実施）について

- ①PH・EC・硝酸態窒素に付いては、標準とされる数値になっている。
- ②リン酸吸収係数は火山灰系土壌であり平均でも2000～2500である。
対策：リン酸の効果は、花・果実を強く、根域を充実させる。このためには
吸収され易く持続性のある肥料（カウボン）などを元肥に施用する。
- ③腐植率は平均でも5以上あり堆肥や腐植酸の施用を続ける。

2. 栽培における肥料の施肥方法について

「環境条件の変化（多雨・猛暑）への対応」

①定植前～定植後の前半

- 1) 冬場における土壌改良（堆肥・微生物資材・土壌分析後の元肥）
- 2) 定植前日の待水（500cc）を行って初期の直根を張らせる。根は30日で決まる。
- 3) 芯葉の展開したら薄く発根材（アミクエ）の株元灌注処理で根域の充実。

②収穫開始～中盤

- 1) 定植後30日前後でN吸収率は最も高く（6～7 g /1株）他の時期の2倍である。
 - ・（収穫量約7kgで、Nの吸収量は22 g で10a当たりでは約40～43kg）
 - ・（株当たり吸収量は約N-22 g、P-9 g、K-38 g、Ca-28 g、Mg-5 g 標準的）
- 2) 収穫開始と合わせて追肥（液肥灌水）や畝方に袋物の追肥を行う。
- 3) 梅雨から高温時期になり草勢も低下するので生長点位置の葉面散布。
 - ・（葉面散布はアミノ酸の豊富な液肥・コラーゲン・ラボ等を午前中に散布）
- 4) 玉の肥大期にはカリを十分に施肥する。
 - ・（光合成で生成した糖を果実に運ぶのに必要な要素は、カリと水）
- 5) 中盤の草勢維持には、根域の充実（アミクエ）は必須肥料
 - ・（アミクエなどの有機酸とアミノ酸はクエン酸回路で生育促進）

③中盤～後半

- 1) 高温期の下温対策と葉面散布
 - ・（上部への遮光資材は生育にはマイナスで循環扇の活用）
- 2) 高温乾燥状態では湿度低下で気孔は閉じ光合成の低下
 - ・（通路灌水での適正な飽差環境）
- 3) カリ肥料を効かせて肥大促進と根域の充実